

## 大栄建設のこれまでと、これから

僕が新卒で入社したのは、創業から半年後の昭和54年5月でした。当時は、道具もなく、労働環境も今とは比べ物にならないような時代でした（座談会参照）。しかし、当時はそういうものだと思っていたので、とにかくがむしゃらに働き続けてきました。今となってはどれもいい思い出です。

大栄建設で仕事を続けてこられたのは、会長の想いや考えを知っていたからです。会長はとにかく社員を大事にし、新しいものに果敢にチャレンジする人でした。どこよりも早く機械化を進め、働きやすい環境もいち早く整えてくれました。先見の明がある人だったので、一緒に仕事をしていて楽しかったです。

毎年慰安旅行に連れて行ってくれたことも忘れられません。費用はすべて会社負担。当時若かった社員の中には、旅費を現金でほしい…なんて言う者もいましたが、定年退職する際、「みんなで旅行したことが忘れられない。いい思い出をありがとう」と去っていきました。お金では買えないかけがえのないものを与えてもらい、本当に感謝しかありません。

代替わりし、今の社長は現場の苦労もよく分かっています。会長が特別扱いはしないと決めて、本人もそれを納得し、キツイ仕事も積極的にこなしていました。同世代の社員より出張も多かったようにも思います。しかし、だからこそ取り組むべきこともよく分かっています。会長と同様に社員の幸せをいつも考えていますし、新しいことにもチャレンジする人です。アスリート雇用や外国人雇用など、時代に合った雇用の形を導入し、地域との交流も大事にしています。そして、業界のイメージを変えたいとオシャレで機能的なユニフォームを採用するなど、僕たちが思いつかないようなことを形にしています。さすが会長の息子だなと思います。

「頭で考えてばかりいないでとにかくやってみなさい」という会長の考えが、今は企業風土になっていると感じます。もし上層部が、「前例がないことはやるな」「ムダなことをするな」と若い人たちの意見や考えを潰していたら、会社はここまで伸びなかったかもしれません。これからもその良さを生かし、前進して行ってほしいと思います。

若い社員と飲みに行くと、「会社のために頑張りたい」と言ってくれます。こんなに嬉しいことはありません。今いる社員は、みんな愛社精神があって真面目で素直。「みんなのため、会社のため」と頑張っているから、強い集団に育っているのだと思います。

僕たちが会長にしてもらったように、僕たちも次の世代を大事に育て、精神面も技術面も、きちんとバトンを渡していかなければと思っています。会社経営で大事なものは、最終的にやはり「人」です。人を育てるのは難しさもありますが、みんなで一緒に困難や壁を乗り越えていくことが仕事のやりがいにも繋がりますし、社員の結束も強くします。

社長が、「やみくもに会社の売上を伸ばすのが目的ではなく、社員がやりがいを持って働き、幸せを感じられる会社にしていきたい。そのための売上なんだ」と話してくれたとき、これから10年、20年と楽しみな会社に成長していくと感じました。

関係各所の皆さま、どうぞこれからも大栄建設をよろしく願いいたします。

専務執行役員 熱海 隆夫

